

2020年1月NHK中国地方放送番組審議会

1月のNHK中国地方放送番組審議会は、16日（木）、広島放送局において、11人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、2月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
委員	安彦恵里香	（Social Book Cafeハチドリ舎 店主）
	伊藤 康文	（一般社団法人イワミノチカラ 代表理事）
	笠原 浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科 教授）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会 教育長）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Archis 代表取締役社長）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）

<放送番組全般について>

- 12月26日（木）Yスペ！・選「新発見！KANMONディープスポット」（総合後6:25～6:50 山口県域）を見た。関門海峡を挟んで隣り合う山口県下関市と福岡県北九州市をテーマに、地元の人でも知らないような場所や、若者の人気を得て活性化している場所を紹介しており、実際に行ってみたいと感じた。また、山口放送局の後藤麻希子キャスターと北九州放送局の廣瀬雄大アナウンサーの掛け合いがおもしろく、最後まで興味を持って見ることができた。
- Yスペ！・選「新発見！KANMONディープスポット」を見た。県をまたいで制作・放送することで他県にも情報発信することができ、観光促進につながると感じた。今後も歴史や経済などさまざまな話題を通じて、他の放送局と連携して番組を制

作してほしい。

(NHK側)

下関市と門司市が互いに競うようにして観光資源を開発しているという点に着目し、山口放送局が北九州放送局と共同して番組を制作した。引き続き両局の連携を深めていきたい。

(NHK側)

中国地方の各放送局は、山口放送局と北九州放送局をはじめ、松江放送局と鳥取放送局、岡山放送局と高松放送局のように、これまでも隣県の各放送局との連携を進めてきた。今年被爆75年となるのを機に、広島放送局と長崎放送局が共同での番組制作を検討するなど、引き続き放送局間の連携強化の可能性を模索していきたい。

- 12月28日(土)年末地域特番「あれから3年 すすさんが投げかけたもの」(総合前7:30~7:59 中国ブロック)を見た。映画「この世界の片隅に」に影響を受けた人への取材など見ていて心の温まる番組だったが、取材対象をどうやって見つけているのかとても気になった。また、映画で原爆投下前の町並みを再現するように描いていたのを見て深い感動を覚えた人がいることを知り、アニメーションの持つ力の大きさを感じることができた。戦時下の庶民の暮らしや当時の町の様子にも興味を持った。
- 年末地域特番「あれから3年 すすさんが投げかけたもの」を見た。被爆前の白黒写真をカラー化する取り組みに協力した方を取材していたが、過去のものを現在と同じ感覚で見ることができて感心した。また、町や人々の歴史が現在に至るまで脈々と続いていることや、人々の暮らしのすぐそばに戦争があったことがよく分かり、改めて過去と現在の連続性や類似性を考えさせるよい番組だった。

(NHK側)

取材対象はこれまでの取材を通じて知り合った方などから探し、今回の取材につながった。東京大学の渡邊英徳教授が取り組まれている

白黒写真のカラー化については、今後も活動を継続されるようなので引き続き取材していきたい。

(NHK側)

今年は被爆75年で、戦後75年でもある。戦争が過去のものではなく現在とつながっているということと、戦争が日常の中にあるものだということを伝えていきたい。

- 1月1日(土)「青 金 緑 平山郁夫 色彩と人生」(総合 後 1:05~2:04 広島県域)を見た。撮影技術が高く、8Kで見ればさらに美しいのだろうと感じた。また、3つの色彩という切り口で1人の画家について解説するという手法が新鮮で感心した。番組の構成は、平山郁夫の作品や人生を伝えるドキュメンタリーの部分と、俳優の小芝風花さんの視点を借りて平山郁夫が作品に込めた思いや足跡を読み解いていく部分とに二分されており、両者を混同せず視聴する必要があるように感じた。
- 「青 金 緑 平山郁夫 色彩と人生」を見た。平山郁夫の代表作を取り上げており興味を持って見ることができた。平山郁夫を知らない人に対しても分かりやすく解説されていたと思う。亡くなる直前まで病室で描いていたという、色付けが未完の作品を紹介した場面も印象的で、余韻を残して見終えることができた。ただ、作品の中に目立たないよう描かれた三尊の仏の輪郭を8Kカメラが鮮明に捉えた際に、東京藝術大学の手塚雄二教授が驚く様子は、感動的だったもののやや過剰な反応のように見受けられた。また、針が正午少し前の時刻を指した時計にカメラの焦点を合わせる演出もあったが、何を意図したものかよく分からなかった。

(NHK側)

小芝さんが平山郁夫さんの人生を追体験するという演出により、平山郁夫さんを知らない視聴者にも身近な存在として伝わるのではないかと考えご出演いただいた。三尊の仏については、目視はできるものの映像できれいに撮るのが難しく、試行錯誤を重ね鮮明に撮ることができたので手塚教授も非常に感動されたのだと思う。時計に焦点を合わせたのは、作品の紹介の後に平山郁夫さんの生い立ちをたどる故郷の

広島県生口島のシーンに切り替えるため、時間の遡及（そきゅう）を映像で表現しようと試みた。

- 1月7日(火)「もぎたて！」を見た。東京オリンピック・パラリンピック出場が内定している柔道の曾根輝選手と、車いす陸上の佐藤友祈選手を取り上げて紹介していたが、まだ出場が内定していない選手の今後の選考過程についても知りたかった。また、シリーズ「西日本豪雨から1年半」では、住民の帰還が進まず経営難に陥る倉敷市真備町の企業の現状について取り上げられており、改めて問題意識を持つことができた。

(NHK側)

岡山県には東京オリンピック・パラリンピック出場が有力視される選手が数多くいるので、今後の選考過程についても伝えていきたい。倉敷市真備町については、復興が進まない部分もあることを痛感しており、引き続き取材を続けて課題を掘り起こしていきたい。

- 1月9日(木)「しまねっとNEWS 610」を見た。データ放送を活用した気象クイズは、気象情報に関心を持つ機会となり、よい試みだと思う。また、14日(火)の放送では出雲市で発生した立てこもり事件について、事実を丁寧に伝えていてよかった。シリーズ「冬の楽しみ方」で鳥取県と兵庫県にまたがる氷ノ山を紹介していたが、県外の情報を伝える際には場所などを分かりやすく明示してほしい。

(NHK側)

データ放送は視聴者へのサービス向上に資するので、今後も活用していきたい。立てこもり事件については広島放送局をはじめNHKの各放送局から取材要員を集め幅広く取材を行い、適切に伝えることができたと考えている。県外の情報を伝える際は、地名などを丁寧に伝えたい。

- 1月10日(金)松崎しげるとももクロのくろ旅「山口県」を見た。番組冒頭で、も

もいろクローバーZのメンバーが、路上で投げられたマシュマロを口でキャッチして得意がる様子は、食べ物を粗末にしているように見え不快感を抱いた。学校では食育を学ぶ機会も設けており、子どもの教育に悪い影響があると思う。それ以外の場面では、出会った地域の人々の多様性や、最後に松崎しげるさんが歌うオリジナルソングのすばらしさに感心した。

- 松崎しげるとももクロのくろ旅「山口県」を見た。「くろ」のつく地名の中からカードを引いて旅先を決定する演出だが、旅先の候補地について番組内で触れておらず、急に旅が始まったことに違和感を覚えた。また、番組のディレクターが出演者の松崎さんと玉井詩織さんを差し置いて旅先で出会った人々に質問する場面が散見され、出演者の2人が生かされていないように感じた。スタッフがメモを用意して出演者から質問してもらうなど工夫が必要だと感じた。
- 松崎しげるとももクロのくろ旅「山口県」を見た。既存のバラエティー番組の二番煎じのようであり、NHKが制作する意義を感じられなかった。有名人が小さな集落を訪ねていくのは見ていてうれしく、旅先で出会う地域の人々の話や松崎さんの歌など番組の内容はよかったが、「くろ」という言葉にこだわるというテーマ設定は分かりづらいように思う。出演者の個性を生かすためにもさらに創意を加える必要があると感じた。
- 松崎しげるとももクロのくろ旅「山口県」を見た。番組内で取り上げる人数が多く、それぞれの会話が表層的なものに終始していた印象を受けた。また、食べ物を粗末にしているように思われる場面もあり、倫理観を持って番組を制作してほしい。

(NHK側)

「くろ旅」シリーズは年度内に5本を制作し中国地方各県を旅する予定で、期待も責任も大きいと考えている。各委員からの意見を謙虚に受け止め改善を重ねていきたい。取り上げる人数が多いからといって番組内容の奥行きが損なわれるものではないと考えているが、意見は今後の番組制作に生かしたい。また、旅先で出会った地域の方々か

らより魅力的な話題を引き出そうとの思いから、番組ディレクター自らが質問をしていたが、今後は事前の打ち合わせを充実させるなど、出演者の魅力を最大限に生かす工夫を重ねたい。食べ物の取り扱いについても、視聴者に不快感を与えることの無いよう注意したい。

- 1月11日(土)インタビュー ここから「新井貴浩～もうダメだじゃなく“まだダメだ”～」(総合 後 10:10～10:33 広島県域)を見た。新井選手の強さは練習量に裏付けられていることが非常によく分かり、関心を持って見ることができた。また、チームの4番打者に抜てきされたのを機に、やらされる練習から自分で考える練習に変わったという逸話や、現役時代と同様の練習は二度とやりたくないという本音を引き出していたことにも感心した。

(NHK側)

トップアスリートが最後によりどころとする猛練習とはどのような意味を持つものなのかを追求したいと考えテーマ設定をした。新井さんが語った3種類の練習、やらされた猛練習、自分で考えた猛練習、ファンを喜ばせるための猛練習と、それぞれの猛練習の違いを明確化できるよう、工夫して構成した。

- 1月11日(土)世界ふれあい街歩き「上海・南京路界わい(中国)」 「上海・四川北路界わい(中国)」(総合 前 10:05～10:49、前 10:49～11:33 鳥取県域)を見た。米子空港と上海を結ぶ定期航空便就航当日の放送で時宜を得ていたうえ、上海の町並みが見事に映し出されており感心した。一方で、米子空港とソウルを結ぶ定期航空便が運休になるなど国際交流の希薄化が懸念される問題も生じており、今後も鳥取県と海外との交流について取り上げた番組を制作してほしい。

(NHK側)

米子 - 上海便に対する鳥取県民の関心は高いため、全国放送の番組を独自に編成した。

- 1月14日(火)「もぎたて！」で「Switch On! 2020」という企画を見た。BMXフリースタイルパークの大池水杜選手を取り上げていたが、世界で活躍する岡山県にゆかりのある選手を知ること、岡山県の人々にも東京オリンピック・パラリンピックを身近に感じられ、選手を応援する契機になるのではないかと思った。

(NHK側)

洗練された映像となるよう意識して制作している。それぞれ1分間の短い映像なので、インターネットでも展開して選手の魅力を伝えていきたい。

- 1月15日(水)「もぎたて！」でプロゴルファーの渋野日向子選手のインタビューを見た。天真らんまんな渋野選手の性格が伝わり好感を持った。3回シリーズの初回だったが、次回以降の視聴意欲もかき立てられた。

(NHK側)

渋野選手への注目度は高いので、今後も視聴者の期待に応えていきたい。

- 12月31日(火)「ゆく年くる年」(総合 後11:45～1月1日(水)前0:15)を見た。山口県下関市にある韓国仏教寺院の光明寺からの中継があったが、日韓関係改善のためにも意義のある放送だと感じた。両国の関係改善を願う人々の思いを伝えるなど、見ていて非常に勇気づけられた。

(NHK側)

日韓関係が注目された1年であり、この中継を通じて両国のことを考えるきっかけになればと企画した。

- 1月6日(月)逆転人生「全国から注目 離島の高校 廃校危機から変革が起きた」を見た。島根県の公立高校の改革を主導した岩本悠さんを紹介していたが、成功体験だけでなく失敗体験についても取り上げており、改革に携わった関係者の苦労を改め

て認識することができた。こうした番組を通じて地方の情報が全国に発信されることはすばらしく、ふだんはなかなか脚光を浴びない地方の実情を引き続き丁寧に取材して頂きたい。

(NHK側)

地域放送と全国放送の連携を深め、今後も各地域の情報を広く発信していきたい。

- 1月10日(金)「金曜日のソロたちへ」を見た。1人暮らしをする3人それぞれの自宅での生活の様子を映し出すという構成だが、スタジオの出演者が機知に富んだコメントを挟んでおり、飽きずに最後まで見ることができる。しかし、一般的な1人暮らしの生活というより、個性の強い方やその人の特徴的な部分ばかりに焦点を当てているようにも感じた。個性的な人ばかりいるわけでもなく、この番組を持続させることができるのかと心配している。

(NHK側)

自宅での撮影を承諾してくれる魅力的な1人暮らしの方を探し続けることは大変だが、1人暮らしの肯定的側面を伝えるというねらいで制作している。

- 12月17日(火)～20日(金)「未来に残したい岡山の風景」(BS4K 17日(火)後0:25～0:30、18日(水)～19日(木)後5:50～5:55、20日(金)前9:55～10:00)を見た。岡山県各地の美しい風景と地域の人々の方言混じりの会話とで構成されたナレーションのない番組で、とても印象的だった。出演していた人々のそれぞれの人生や町の地域性が色濃く現れており、すばらしい番組だと思った。

(NHK側)

この番組の目的は、岡山県内各地の風景を4K映像で記録することだ。ドローンを用いて撮影するなど、映像にこだわって制作している。

- 「ラウンドちゅうごく」で、地域における政治・経済の問題を積極的に取り上げてほしい。海外では政治・経済、国際問題といった時事問題を取り上げた報道が多く見られ、日本のニュースや番組で取り上げる話題に少し違和感を覚える。例えば、大阪都構想が長らく議論されているが、県と政令指定都市の関係性は広島県や岡山県でも課題になりうるので、取材して検証するなど、地域における課題を見つめ、考えるきっかけになる番組作りに期待したい。

(NHK側)

政治・経済の動きは日々の生活に大きく関わることであり、今後取り上げて行きたい。県と政令指定都市の関係性という点では、広島県と広島市との間で保存か解体かで方針に相違がある被爆建物の「旧陸軍被服支廠」について考える特集番組を、2月15日(土)に広島県内向けに放送する予定で、全国放送についても検討している。

- この冬は記録的な暖冬で気候の変化を非常に心配しており、環境問題について取り上げたニュースや番組も放送してほしい。地球温暖化による異常気象という大きな課題を次世代に積み残してはいけないと、再認識する重要な機会になると思う。

(NHK側)

環境問題について、こういった企画ができるか検討したい。

- 「いだてん～東京オリムピック噺(ばなし)～」は、女性アスリートが心の葛藤を抱えながら成長する姿や、1964年の東京オリンピック・パラリンピック招致に向けた人々の奮闘など、あまり有名ではない逸話や人物が描かれており、見ていてとても感動した。また、今年は2度目の東京オリンピック・パラリンピックが開催されるうえ、箱根駅伝創設100周年に当たるので、時宜を得た放送だったと思う。ドラマの時代設定が戦国時代や幕末ではなかったので、これまであまり大河ドラマを見なかった層にも比較的受け入れられたのではないかと。日本を陰で支えた人たちに焦点を当てるなど、今後も新たな切り口で大河ドラマを制作してほしい。

(NHK側)

今までにない大河ドラマにしようという意気込みを持って制作したため、従来大河ドラマを期待されていた方の中には支持されなかった方もいるかもしれないが、一方で新たな視聴者を獲得することもできたのではないかと考えている。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを応援しようという気持ちを、視聴者に喚起することができたのではないかと感じている。

NHK広島放送局
番組審議会事務局